

(別添3)

【岩沼市】 校務DX計画

岩沼市教育委員会では、国のGIGAスクール構想に基づき、令和2年度から全ての小・中・義務教育学校で1人1台端末（タブレット端末）と高速大容量の通信ネットワークの構築、クラウドサービスの活用、文部科学省リーディングDXスクール事業の指定を受け、授業DXや校務DX、生成AIの活用などの取組を推進してきた。

1 クラウドサービスの活用

(1) 現状と課題

本市では、「Google Workspace for Education」を学習活動や校務で活用している。児童生徒の欠席等連絡、学校から保護者へのおたより配信、児童生徒への宿題配信、職員間の情報共有等において、クラウドサービスを用いたことで、業務の効率化、時間の有効活用、ペーパーレス化につながっている。

(2) 解決策

活用が進んでいない学校の現状と課題を把握するとともに、リーディングDXスクール事業での好事例や先進的な取組を岩沼市立学校へ横展開するとともに、校務DXが推進されるよう継続して支援していく。

2 FAXでのやり取り・押印の見直し

(1) 現状と課題

本市では、校務系内部ネットワーク内に「共有フォルダ」を構築し、「学校と教育委員会間」「学校間」「教職員間」の文書や資料の送付、データの授受に活用している。また、教職員一人一人に「Google Workspace for Education」のメールアドレスを付与しており、外部との連絡に活用しているが、慣例的にFAXを使用している場合もある。

押印については、「学校と教育委員会間」において機微な情報を含む文書等への押印を求めることがある。また「学校と保護者間」において、保護者等に提出を求める書類等について、原則として押印を求めないこととしているが、署名の他に押印が必要な書類もある。

(2) 解決策

災害時や学校教育ネットワークの不具合時など、FAXの方が効率的な場合を除き、FAXの原則廃止に向けて、関係機関及び学校とやりとりのある事業者に対し、教育委員会から慣行の見直しの依頼をする等、継続的に働き掛けていく。また、教育

委員会内で押印を求めている業務や書類の有無と見直しの可否見直しができない場合の理由についての現状把握を行い、機微な情報を取り扱う場合を除き、公印省略で取り扱うなど押印ルールの見直しを図っていく。

3 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

本市で導入している校務支援システムは、児童生徒の名簿等の情報入力を手作業で行うことも可能であるが、原則としてはCSV形式で作成した個人情報ファイルを取り込んで登録することとしている。また、『データが原本』という考え方の元、紙媒体に出力して提出を求めることはしない。

4 次世代の校務システムの導入

(1) 現状と課題

本市では、令和元年12月より学校教育ネットワークを児童生徒の個人情報を取り扱う「校務内部系」、メールの送受信やホームページの編集等、インターネットに接続して業務を行う「校務外部系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の3つに分離し、インターネット経由から児童生徒の個人情報等にアクセスできない構成としている。そのため、個人情報漏洩のリスクは限りなくゼロに近いものの、文部科学省が推奨する校務系・学習系ネットワークの統合やクラウド環境での校務実施については検討段階である。また、本市では令和4年度から統合型校務支援システムを導入しており、教務系（成績処理、出欠管理等）、保健系（健康診断票、保健室来室管理等）、学籍系（指導要録等）など幅広い業務で利用している。オンプレミス型で運用しているため、自宅や出張先での校務処理ができないなどの課題が見られる。

(2) 解決策

本市で導入している教育ネットワーク及び校務支援システムは、令和8年度末までの運用予定となっている。国で行っている次世代の校務デジタル化実証事業の成果などを参考にしながら、校務系・学習系ネットワークの統合やクラウド環境での校務の実施等を視野に入れ、次世代の校務DXを実現するシステムの導入の検討を進めていく。